

# 神戸医療福祉専門学校中央校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和元年6月29日 13:00～15:00 実施】

平成30年度自己点検自己評価(平成30年4月1日～平成31年3月31日)による

評価委員集計

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
1 教育理念・目的・ 育成人材像	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4	職業人教育を通して社会に貢献することをミッションとし、3つの建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)の実践、4つの信頼(学生、保護者からの信頼・高等学校からの信頼・業界からの信頼・地域からの信頼)を得られる様に学校運営する中で、各業界のニーズに即した人材育成を行っている。	学生の質的变化が伺える中、実習だけでなく、地域における活動や教育課程編成委員会などを通して業界との連携を深めつつ、カリキュラムにキャリア教育の実践を盛り込んだ内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていかなければならない。	4	・建学の理念及び育成人材像が明確に定められており、それに基づいた学校運営が完成されている。・人材育成に力を入れていると認められる。・学生の質がどんどん変化しているため、そのスピードに教育内容や指導体制をととのえる、おいつく(あるいは、適切に対応させる)のはなかなか困難だと思いますが、今後とも貴学の理念に基づき、信念を持って取り組まれてください。・業界との連携をこれからも深めていって下さい。・理念をしっかりと実践できている。・自校の持つ使命を自覚し、時代の流れにも適応しながらその達成に向けて取り組んでおられる。・時代のニーズに合った形で進めていって下さればと思います。・SNSで地域における活動が報告されており、学外の方々に良い印象を与えられているのではないかと感じる。保護者からの信頼を得られているのではないかと感じる。・職業人教育を更に高めて頂きたい。
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか					
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	組織目的・運営方針・目標・実行方針・実行計画を、毎年見える化し、年度末に行われる事業計画発表会で各セクションの運営方針が発表され全教職員が共有している。また各月に開催される運営会議・全体会議において運営方針に沿った情報共有を行い問題解決にあたっている。	教育目標達成のための事業計画を円滑に進めるため、グループ内や法人内での研修を通してマネジメントスキルの向上に努めている。	4	・理念に沿った事業計画が実施されている。・適切に行われていると思います。・法人運営の核は理念の実現であることを認識し、それを具体的に系統だてて計画、実践している。・適正である。・適正な学校運営のための組織体制が整備・構築されており、教職全員が運営方針を十分に認識・理解できるよう、情報共有が図れる環境が整っている。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	組織図に基づいて、適切な運営が出来ている。理事会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。運営会議でも運営状況の確認・検証、学科会議、事務局会議、全体会議を通して報告、連絡、相談、情報の共有などを図っている。	学校運営に必要な組織体制は整っていると思われるが、今後は各部署間連携を活性化し可視化することで新たな方向性も模索できるのではないかとと思われる。	4	・様々な場面で可視化が求められる時代かと思えます。今後さらに進められることを期待しています。・組織図の明確化は運営上とても大切であり、それに基づいて指示・命令をしている。・情報を共有化し組織化されている。
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3	問題解決サイクル(問題発見・問題分析・仮説立案・対策立案・実行・検証)を回していることにより意思決定プロセスを効果的に活用できているため学校運営がおよそ円滑に進んでいる。	広報・教育・就職それぞれの目標到達の運営指標を定め、運営会議や各科広報会議内でのチェックを定例化しているため数値から問題が読み取れるが、意思決定前の早期からの課題に対する気づきの精度を高める必要がある。	3.4	・気付きの精度(学生)が大切である。・学生の質の多様化が進み、問題も同様に多様化している。教職員のスキルアップのみならず組織としての支援システムの向上を求めたい。・よく学生の事を見て下さっている先生方ばかりで、きちんとコミュニケーションを取っていただけているのでいいと思います。・整備されている。
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	学校セクション毎の情報システム化、学生の情報の管理、その結果としての業務の効率化が推進されている。	学生一人ひとりの情報(入学前、在籍中、卒業)を一元管理することにより、学生への様々な支援(学費相談、進路決定、就職支援等)の際に、その情報を活かし、一人ひとりの教職員が適切な助言ができ、業界に求められる人材の養成や国家資格取得に結びつけることが出来る様に、その学生支援の精度を今後更に、高める必要がある。また、学内のシステムによる業務の効率化だけではなくインターネットを利用した学生や卒業生との双方向サービスの充実を中長期的な課題としたい。就職情報の共有やサポート、国家試験対策(e-learning,スマホの活用)など効果的、効率的なサポートシステムの構築を目指す。	3.8	・良いシステムを構築している。・効率的有効的な管理ソフトがあるかどうかかわからないがインターネットを利用したシステムは常に改善をしていると思うので検討を続けられたい。・効率化されている。・卒業に関してもフォローができていと思う。

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い教育課程の編成方針、実施方針を定めている。 編成方針や実施方針はディプロマポリシー(DP)やカリキュラムポリシー(CP)に反映させている。 修業年限に応じた教育到達目標については科目間の関係性を重視し、カリキュラムマップを作成し明確にしている。	修学3年間の流れや目標(教育課程)を入学前教育時から説明し、各学年時における授業開始前のオリエンテーションにて修学3年間、各学年時の目標を説明している。	4	・介護も鍼灸科もDP,CPともに明確化されている。実践力のある学生を育成を目指していると思う。 ・カリキュラムマップを見れば各科目の関係性や修得内容がよくわかり、学生としても目標を立てやすくなっている。 ・よく取り組まれていると思います。 ・各学科ごとにDP、CPが明確に定められている。(カリキュラムマップで明示されている。) ・明確な目標があり、学生にも説明されているようで目指すゴールが見えており、意識付けができていように思う。 ・定められている・よく取り組まれていると思います。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか					
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い教育課程の編成をしている。 将来、業界から求められる人材に必要な知識・技術の養成についてステップアップ(階段式)形態で初年度(1年次)より段階を経て基礎から応用実践までを編成している。	近年、カリキュラムに各校独自の特色を出すことも望まれており、介護総合演習や実技指導などにて卒業生の出講や、業界また他業種の方々により講義を実施している。	4	・習得年次において適切なカリキュラムが作成されている。 ・各校独自の特色に我々業界の者が協力出来ることがあればお声がけ下さい。 ・特色が出ています。卒業生や目指す業界の中に目標とする人材を身近に感じる良い機会を作っていると思う。 ・実際に職に携わっているの方々のご協力により幅が広がるのでとてもいいと思います。 ・構築されている。 ・よく取り組まれていると思います。
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	業界団体の学会・会合等への参加、業界開催の研修内容等の把握より業界や社会のニーズの把握に努め、教育に反映させている。	社会的ニーズを教育内容に反映させるため、講義・演習にて卒業生の講義や実技指導などを積極的に実施している。	4	・卒業生を活用し、学生のモチベーションUPを実施している。 ・卒業生は学校の財産である。学生にとってもキャリアデザインとして一番身近な存在であるので協力いただき指導者としても活躍(活用)してもらいたい。 ・まさに現在の業界(社会ニーズ)の事を知る者が指導することで、現在のニーズに合った知識が得られると感じる。 ・反映されている。 ・よく取り組まれていると思います。
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	キャリア教育に対する考え方やフレームを「キャリア教育ロードマップ」として作成し、キャリア教育に取り組んでいる。 実習や学外研修で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーション能力、問題解決能力を身につける指導を実施している。	働くための知識・技術と社会人基礎力を踏まえたキャリア教育の充実が求められている現在、コミュニケーション能力は重要なポイントであると考えている。 実習前後や普段より個別面談を実施し、振り返りを行うことで教育効果を上げている。 特にコミュニケーション能力に問題がある場合はその状況(状態)の把握、学生自身によるその状況の認識、それによって発生する問題点、改善方法、目標を提示しながら進めることで、一様の成果が現れるケースもある。	4	・キャリア教育で身につけるべき能力についてチェック表を設け、自分自身で状況を把握できるようになされている点もよいと思います。 ・コミュニケーション能力は対人援助する上で重要である。今後pointであるが、コミュニケーション力は何にも変えがたい程重要である。 近年苦手とする学生が多いので指導に力を入れていっていただきたい。 ・卒業を見据えて職系人(社会人)として必要不可欠となるコミュニケーションスキルに関する指導・教育がカリキュラムに盛り込まれている。 ・細かくキャリア教育の項目が設定されており、人材育成に期待ができる。 ・どちらの科もコミュニケーションは必要不可欠だと思うので今後も学生1人1人との面接を続けていただき、その生徒に合った対応をよろしく願います。 ・実施されている。 ・よく取り組まれていると思います。
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	学期終了時に科目毎に授業に対するアンケートを実施している。 アンケートは科目担当者へフィードバックし、より質の高い教育を目指し反映させている。	現時点では、対象を専任教員のみとしているが、今後は兼任教員を含めて実施したい。	3.4	・評価方法を今後も考えて行くとのことで、今後お願いしたい。 ・是非兼任教員へのアンケートも実践下さい。 ・兼任教育の実施を進めて下さい。 ・専任教員のみ負担にならないようにしてほしい。 ・専任教員、兼任教員含めて実施した方がよい。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	成績評価や単位認定の明確な規定が学則や履修規定・試験規定により明文化されており、教員・学生ともに周知されている。 また学生に対しては各学期開始前のオリエンテーションにて再確認を実施している。 卒業生の学会発表等の成果を把握し、授業でフィードバックしている。	定期試験の結果が国家試験出題範囲の理解となるような評価方法を検討するよう心掛けている。 既に定期試験に関しては五者択一のマークシートを取り入れており客観的な評価の実施を目指しているが、思考力・表現力・文書力等の評価が難しくなる面を持ち合わせている。 このため日頃より文章読解力の強化が図れる課題などを取り入れ実践している。	4	・客観的な評価である。 ・きめ細かな国試指導をされ、高い合格率を保っておられる。 ・国家資格合格を目標としたカリキュラムの選定指導体制が整備されている。 ・思考力、表現力アップはなかなか難しい課題だと思いますが適切に行われていると思います。 ・国家試験合格率をできる限り100%目指して頂きたい。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか					
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	学生便覧等に卒業後に得られる受験資格について明記されている。 また、養成課程目標とする資格取得のために養成施設指定規則に定められた時間数以上の授業時間を確保している。 最終学年では国家試験合格に向けた年間タイムスケジュール作成や個々の学生の弱点科目(項目等)の把握に努め、到達状況の確認、指導を実施している。	1・2年次より国家試験を意識した授業を実施している。 また、2年次では放課後学習会やST制度を導入し、個別指導の徹底を図っている。	3.8	・100%学生さんが入学し、資格を取得して全員卒業するというのはなかなか難しいと思いますが、そこを目指して自己評価を「3」にされている姿勢がすばらしいと思います。 ・合格率を限りなく100%にする方向性である為、適切と思われる。 ・きめ細かな国試指導をされ、高い合格率を保っておられる。 ・放課後の教育を行っており、きちんと指導できていると思う。 ・基礎学科を徹底的にやって頂きたい。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか					

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
3 教育活動	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師に係る学校養成施設指定規則」の規定に基き教員人数は充足している。新入職の兼任教員には、グループ校で講師研修、専任教員はFDマイクロレベル研修や公開授業を実施して、スキルアップを図っている。	教育力向上に向けて、学園グループのFD研修(ミドルレベル・マイクロレベル)を受講し、より質の高い教育を目指していきたい。専門性が高く、幅広い医学的知識を必要とするため関連セミナーや学会への参加を促している。教育理念を達成するために学科事務局組織を編成し、会議を実施し体制を整備している。また年度初めには各部署にて事業計画を作成し共有することで組織運営を実施している。	3.9	・学生の落ちこぼれのないように教師及び学生委員と協力して100%目指して頂きたい。・個々に応じた対応をまめにさせていただけるようなのでこれからも研修等大変だと思いますが、よろしく願います。・教員のレベルをどう上げるか、本気で取り組んで欲しい。差があると思います。・学校運営及び学生指導に必要十分な教学が確保されており、また、教員のスキルアップに関して継続的に取り組まれている。・人材難の時代において教員の確保も大変だと思われるが、やり甲斐のあるまた働き易い環境を常に整え優秀な教員が永く勤めていただけるようお願いします。・学生へのカウンセリング技術向上の為に研修があり、また、他の研修も多岐に渡っており適切であると思う。・学園グループとして研修制度が整備されているのがすばらしいと思います。
	3-12-2 教員の資質への取り組みを行っているか					
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか					
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	平成30年度卒業生の就職内定率100%という結果を残している。	常に学生が求める就業先からの求人を得るために求人依頼を発送し、また学生との面談を実施して希望就業の把握に努めている。	4	・学生の希望に合った就職先に行けるように努力していただいているのはありがたいです。・就職内定率100%は素晴らしい結果。・本校の学生は引き手あまたであり、そのような評価や実績を築いてこられた努力の賜物だと思われる。学生にとって満足のいく就職につながるよう願います。・適切である。・近年介護福祉の業界は売り手市場かと思いますが、ますます学生のレベルを高め100%を維持していただけたらと思います。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	平成30年国家試験の合格率は以下の通りである。 介護福祉士 100%(全国平均73.7%) はり師 新卒 100%(93.1%)既卒 80%(40.7%) きゆう師 新卒 100%(94.2%)既卒 80%(43.3%)	入学した全ての学生に目指す資格を取得させるという学園・学科のミッションを達成すべく、個々の学生の指導体制を整備・強化する必要があると考える。目標達成には初年度教育の充実、また保護者の協力が必要となっている。	3.8	・国家試験合格率100%は素晴らしい結果。・新卒合格率100%の結果は素晴らしい取組の成果だと思います。・高い合格率は学校一丸となった支援と学生の努力の結果、素晴らしいと思います。・100%は実績として素晴らしいと思う。国家試験取得が最大のpointであるのでも良い。適切である。・いかに留年を出さずに卒業させるかも新しく取り組んで欲しい。・100%と数字で結果が表れている。・既卒者の合格率が悪いようである。いろんな条件があると思うが、最低でも60%~70%目指して頂きたい。
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生の活躍は就業先からの評価や役職への登用、独立開業者の増加、実習指導の出来る卒業生の増加などから評価できると考える。	就業先への訪問や業界会合への参加等を通して、業界のニーズを把握し卒業後研修を充実させる必要がある。	3.3	・就職先は狭き門になっていくのでは？売り手市場ではあるが就活のレベルアップを望む。・「奨学金の返済のため〇年だけ勤める」という卒業生を近年よくみかける。長く業界で働くことのできる卒業生のフォローを期待したい。・卒業後も悩みがあれば学校で話を聞いてもらったという方をよく聞きます。サポートに感謝しております。・業界の流れや業界のニーズをカリキュラム、勉強に反映することが望ましい。・卒業時点までにとどまらず卒業後フォローも充実されれば、ますます貴学への評価が高まると思います。
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	就職支援機能を学科内に置き、専任教員が学生への就職支援相談を実施している。	就職支援に関しては関係する法規やマナー、面接技法などを授業で指導している。また就職に関する調査アンケートを個別に実施し、就職相談や求職依頼に活用している。	4	・学生に対する支援制度、カウンセリングが整備されており、適時学生の相談を受け入れが出来る環境が構築されている。(※教職員のカウンセリングスキル向上の為に研修が行われている。)・受験される学生どなたを見ても面接時大変行き届いている。指導が行き届いておられる。・学生指導の徹底を行うことで適切である。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学の理由として、学力不振が最も多いが、近年では学力不振の背景に心理的な課題や目的意識の喪失などが伺える。退学率の低減のために学生個人の特性を理解するためにサポートアンケートを実施し、学生個別面談への活用や日々の学生動態と照らし合わせて学生の変化を察知できるよう努めている。またスクールカウンセラーや進路変更委員等が退学防止に向けた取り組みを行っている。	進路変更委員も含んだ教職員個々のカウンセリング力のさらなる向上が求められる。また、保護者との連携の強化も必要となる。	3.4	・入学時のモチベーションを高め入試問題もレベルをあげてみてはいかがでしょうか。・専門的な内容なのでなかなか勉強は大変だと思いますが、今後も個々と密に関わっていただき、目標に向かって頑張れるようサポートお願いします。・入学後すぐに出席できない学生がおられる。入学前教育を行っておられ、入学後スムーズに学生生活ができるよう配慮されているのに残念である。教職員の方々は学生のメンタルケアも丁寧に行っていると感じる。・一定割合の退学者が発生するのはしかたない。貴校の退学者の割合が他校と比較して多いのかわからないが防止の為にサポート等しっかりと行われていると思います。・退学率0が望ましくはあるが、退学に至るまでの過程が大切かと思われる。十分サポートしていると思います。0を目指して学生に寄り添ってあげて下さい。・1年次の退学トータルで学力低下など取り組んでいる。適切である。・1年次の退学者をいかに0に近づけるか難しいかと思いますが、保護者との連携、入学前研修等をうまく組み合わせながら強化されれば・・・と存じます。
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	スクールカウンセラーを配置している。継続して相談室の利用について広く告知する。	学生の多様な問題に対応するため、サポートアンケートの活用、教職員のスキルアップ、カウンセラーとクラス担任との連携の強化などを行う。一昨年に比べ、スクールカウンセラー(相談室)の利用が増えている。利用によりモチベーションの向上が得られたケースも認められている。	4	・学生が気軽にカウンセラーを利用できるように工夫してほしい。・学生の精神的な支援が重要なので、教員のカウンセリング研修はとても有効だと思われる。・適切である。
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか						

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
5 学生支援	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	学生の経済的側面の支援は、フィナンシャルアドバイザー研修を受けた職員によって①入学前②入学後において個別相談を実施している。学費相談を受けた学生個人に応じて、学費支払いと奨学金制度での資金のやり繰りにおいてシミュレーションを実施している。学生支援機構においては借り過ぎ防止にも努めている。健康面については、学校健康法に基づき4月の健康診断の実施、必要に応じて再検査の案内を行っている。	学費支援システム・特待生選抜制度・在校生援助奨学金・学びなおし支援金など複数の学校独自の支援制度を活用し、個々の学生の状況に応じたサポートを行う。特に奨学金の借り過ぎ防止の対策と卒業学年においては就職状況も把握することを努めていきたい。健康面においては、再検査の受診率100%を目指す。	4	・規程に従ってしっかりと行っている。・経済的側面をサポートできる支援制度が用意されている。・適切にされていると思います。・サポート体制は整っているようです。
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか					
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか					
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか					
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	出席状況や成績など様々な課題がある場合やそれらが予測できるケースにおいて保護者への連絡や3者面談を実施している。	学内での状況を一番把握しているクラス担任を中心に保護者への連絡や報告、相談を密に行える体制を作るために入学前の保護者説明会以降諸問題の解決に対して保護者の協力を得ること。心理的課題を抱える学生が増えていることも考慮し、保護者支援の必要性について理解を促し、学業支援体制の充実を図るためにさらなる連携を強化する必要がある。	3.9	・多忙な保護者も多く、連絡が難しいこともあるかと思うが理解を求めお互いに協力しながら学生をサポートしていただきたい。・担任制をとっておられ、学生1人1人をよく把握されていると思う。
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業生との(業界)連携はますます重要になってくると考えられ、学科ごとの卒業研修を充実させる必要がある。現在、求職や開業相談などについては、学科教員が対応している。産学連携による再教育に関してはSNSなどを活用し、業界団体また関連職種が開催する講習会等の案内を伝達し参加を促している。	SNSなどを活用し卒業生の近況の情報収集を行い、必要に応じて卒業生への支援を実施している。卒業教育に関しては学校行事の兼ね合いより実施できていない現状である。	2.7	・卒業生のフォローが大切である。今後もどの様に取り組むか検討必要である。・限られた教員数で卒業教育まで…というのはなかなか大変と思いますが、貴学のあり方として今後とも充実をめざしていかれてください。・卒業後もよくサポートしていただいている。組織だって支援体制の確立は時間と手間がかかるが、簡単なことから始めてみてはいかがでしょうか。・卒業後も学校に相談しにくる卒業生がおり、対応されているが、教員の負担も大きいのではないかと懸念される。
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか						
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか						
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	厚生労働省による「介護福祉士養成施設指定規則」、「あん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゅう師に係る学校養成施設指定規則」に従い、設備・教育用具等を整備している。	教育効果とその必要性を検討し実習施設の拡充、教育用具等の充実をさらに図る必要がある。	4	適正である。・購入計画を立て設備、備品を適切にリニューアル下さい。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	滋慶学園の建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の一環として学外実習や海外研修を実施している。	学外実習では、学生にとって多岐に渡るケースに触れる機会を多く設けたい。海外研修は、介護福祉士科はオーストラリア、鍼灸科はタイで実施をし、医療・福祉の違い、文化・風土、人体の構造について等の学びを深め卒業後に役立てたい。	4	適正である。・学生時代の海外体験は貴重で人生における財産になるので引き続き支援下さい。・いい試みだと思います。
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	想定される災害に対する防災体制は整備されており、緊急連絡メールシステムが設置されている。消防訓練は、消防署員立会いの下で年1回行っており、評価を翌年に生かし改善している。また、心肺蘇生講習会を三田校救急救命士科の協力を得て行っている。緊急地震速報対応訓練も行っており、AEDは設置済みで月1回の点検を行っている。また、損害保険などにも加入している。	緊急時により近い消防訓練を行うため、各担当者の役割を越えた訓練を通して安全管理体制を強化をしたい。教職員は、AED利用講習会は受講しているが、緊急時に活用できるかどうか定期的な研修を三田校で予定している。	4	適正である。・昨今の天災の多さからも必須だと思われる。・三田校で行うことで、より実践的に行えているのではないかと良いと思う。
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか					

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
7 学生の募集と受け入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	兵庫県専修学校各種学校連合会の規定に基づき、募集開始時期、募集内容(入試日程・入試制度・特待生試験・学費明記など)を決めている。入学案内は、三田校と共通のもので、学校・学科・設備・在校生、卒業生紹介・就職支援や実績・オープンキャンパス等が理解できる様に編集し、それを基にホームページも整備している。個人情報保護委員会を設置し情報を管理している。	モチベーションの維持・強化をするために、入学前にはオープンキャンパス→入学前教育を実施し、入学後の授業や学生生活、職業観を意識した形での教育を実施し、スムーズに専門教育に取り組める様していく。また同時に職業に関する啓蒙活動にも取り組んでおり、業界と連携し、中学生のとらいやるウィークでの介護職経験の実践の機会を提供している。今後一層拡大していきたい。	4	・中学生の介護職体験を今後さらに拡大させていかれるとのことで、よいと思います。・小中学校での福祉教育、トライやるウィークなど低年齢時経験からこの仕事を目指す方を多く見る。それらへの協力も効果的かもしれない。・高校生に話を聞いた時、学校に足を運んでもらって興味をもちオープンキャンパスに参加している人がいたので取り組んでいると思う。・HPで分かりやすく効果的だと思う。中学生のトライやるウィークでの経験の実践の機会を提供されていることは、早期の時点で福祉業界をアピールされていることでとても評価できる。・入学希望者、新卒が多いのは将来性のある教育、指導をして頂きたい。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか					
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通りに選考をしている。各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。また、選考終了後は判定会議により可否を確定する。面接、提出書類、選考試験の結果を踏まえ、将来医療・福祉の業界で働くことに適性があるかを総合的に判断している。	将来の希望分野への適性をきちんと見極めるため、面談の比重を高くしている。結果として学力のみにとらわれない、モチベーションの高い学生確保に役立っている。また、AO入試を導入し、学力に捉われず、キャリア教育の一環として、やる気を重視した入学選考を継続する。	4	・AO入試の取り組み。・面談の重視はとても有効だと思われる。・対人職であり面談の比重を高くしていることは高く評価できる。・専門的なため、やる気は必要不可欠だと思いますのでとてもいいと思います。
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか					
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、各学科の教育目標達成を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師、教職員)、実習費、施設運営費等に当てられている。毎年、各学科において教材及び担当講師の見直しを行っており、諸費用の無駄な支出をチェックしている。各学科から提出された案を元に運営会議にて検討され、決定をしている。また、入学辞退の取り扱いについては、募集要項に明	各学科において毎年教材及び実習着・実習用具等の見直しを継続的に実施している。	4	・優良な財務状況になるように無駄をはぶき必要なこと(特に人件費)への支出をおしまずバランスを図っていただきたい。・学費が高いイメージが付いているので少しでも無駄は省きたい。
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取り扱いを行っているか						
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	5ヶ年を見越した収支計画は中長期的な視点で考えているため、財務基盤の安定に資するための大規模な計画もじっくりと立てることができ、この方針は今後も続けていく。	安定した運営を継続的に行うため、各学科における1学年の募集定員、介護福祉士科40名、鍼灸科30名、精神保健福祉士科40名の定員充足率100%を目指し、退学率4%以内を目指す。	4	・財務安定の為募集定員の充足が一番大切なことかと思われる。・定員を増やすことはできないのか?・運営されるにおいて適切だと思います。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか					
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	5ヶ年を見越した収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の機会をチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものと考え。学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。	予算編成に際して、事業計画(単年度・中期計画)と現状の整合性を図る様にさらに努める。	3.7	・理事・監事など様々な目線で財務状況をチェックすることが大切。・黒字かどうかわからない。
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか					
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4	私立学校法に基づく業務並びに財産の状況について監査を実施している。現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考え。監査を有効に実施するため、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	内部・外部両監査時における改善意見について記録し、適切かつ迅速に対応する。	4	・監査指導事項の速やかな改善を繰り返していくことが健全な運営につながると思われる。
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	財産目録、貸借対照表、収支計算書、監査報告書など財務情報公開の体制整備は出来ている。	公開が義務付けられている財務情報(収支計算書・財産目録・貸借対照表・監査報告書)については、継続して公開する。	4		

項目	点検項目	自己評価	自己点検	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1			適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1	
9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは、学園全体では整備されている。カリキュラムや教員要件は学科長がチェックしている。	養成施設の設置及び運営に係る指針及び養成施設指導ガイドライン等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届け等の提出を兵庫県の担当部署に対して適切に行う。	4	・健全な運営がなされている。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学内で個人情報保護規定を定め、個人情報保護委員会が中心となり運用している。教職員に対しては、個人情報保護責任者は認定CPOアカデミック講座を通して、学校等における個人情報管理責任者として必要となる知識を習得。教職員は、認定CPAアカデミック講座を通して学校等における個人情報取り扱い従事者として個人情報を取り扱うために必要となる知識を習得した。それぞれ更新講習に取り組んでいる。学生と講師に対しては、オリエンテーションなどにおいてITリテラシーについてや個人情報保護について冊子を用いて伝えている。	学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員・学生においてITリテラシー理解度テストを毎年開催し、意識を高めている。	4	・個人情報保護は重視されている。適切である。・少しの油断やすきをねらって個人情報がもれていくと思われる。細心の注意を期待します。・法令は正しく守って頂いているものと信頼しております。
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	年1回自己点検・自己評価を行い、学校関係者評価委員会で意見収集し、その結果をホームページに掲載している。	学校関係者評価結果に基づき短期的・中長期的課題の整理を行い、改善に取り組む。	4	・適切である。・形がよい化することなく実際に点検項目を改善していただくことが大切かと思えます。
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか					
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか					
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか						
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	教育情報については、自己評価・自己点検の結果等と合わせてホームページに掲載している。	ホームページに掲載している教育情報については、必要に応じて更新をする。	4	・ホームページにUPされており、適切である。・出来ている。・適切に実施できていると思う。	
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	教育資源を活用した社会貢献については、近隣の福祉施設、高等学校、関連団体とある程度の連携・交流は出来ている。 地域貢献としては、定期的な近隣清掃及び防災ボランティア等への積極的な参加などを実践している。 諸外国の学校などとの連携については、海外研修において、介護福祉士科はオーストラリアのラ・トロップ大学を訪問しており、鍼灸科ではタイのマヒドン大学医学部シリラート病院を訪問している。	地域防災ボランティアや地域健康増進推進事業への教員ならびに学生の参加。高等学校への講師派遣ならびに県下スポーツ競技へのトレーナー派遣を実施している。 平成30年度海外研修参加率 介護福祉士科:91.4% 鍼灸科:95.5%	4	・実践を続けていただきたい。・社会貢献についてはSNSでも確認できている。良い取り組みだと思ふ。・地域の方々とコミュニケーションを図ることはこれからも続けていただきたいです。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか					
	10-37-1 学生ボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	ボランティア活動の場は対人援助職に求められるコミュニケーションスキルの向上に役立つため、学生への参加を促している。	地域防災ボランティアや地域健康増進推進事業への参加や地域清掃を実施している。	3.9	・将来性あるボランティア活動がされている。適切である。・マラソンや大きな大会にもっと出るべき。ハーフマラソンレベルはたくさんある。・生の業界を体験することができ評価できる。・ボランティア活動を増やして頂きたい。